

令和4年度予算のあらまし

令和4年度那珂川町一般会計予算は、8,030,000千円となり、前年度予算に対し、920,000千円減（10.3%減）となった。この主な要因は、令和3年度における大型事業である、屋内水泳場整備事業が完了したことによるものである。なお、増額となったものは、新たな屋内水泳場の運営に係る体育施設管理費や、定住促進のための分譲宅地整備事業、いちご一会国体準備事業などである。

特別会計は、下水道事業特別会計は減額となったが、ケーブルテレビ事業特別会計、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計、農業集落排水事業特別会計で増額となったため、特別会計の予算総額は5,011,000千円となり、前年度予算に対し、96,000千円の増（2.0%増）となった。

ケーブルテレビ事業特別会計予算は、290,000千円で、ケーブルテレビ施設整備実施設計業務など、ケーブルテレビ事業費の増により、前年度予算に対し、40,000千円の増（16.0%増）となった。

国民健康保険特別会計予算は、2,129,000千円で、保険給付費の増により、前年度予算に対し、7,000千円の増（0.3%増）となった。

後期高齢者医療特別会計予算は、242,000千円で、後期高齢者医療広域連合への納付金の増により、前年度予算に対し、28,000千円の増（13.1%増）となった。

介護保険特別会計予算は、2,000,000千円で、地域密着型介護サービス給付費の増により、前年度予算に対し、23,000千円の増（1.2%増）となった。

下水道事業特別会計予算は、301,000千円で、公債費の減により、前年度予算に対し、5,000千円の減（1.6%減）となった。

農業集落排水事業特別会計予算は、49,000千円で、施設管理費の増により、前年度予算に対し、3,000千円の増（6.5%増）となった。

水道事業会計予算は、695,500千円で、施設管理費の減により、前年度予算に対し、1,900千円の減（0.3%減）となった。

これにより、一般会計及び各特別会計並びに水道事業会計の予算総額は、13,736,500千円となり、前年度予算と比較して、825,900千円の減（5.7%減）となった。

一般会計における歳入の財源内訳、歳出の性質別内訳は、次のとおりとなった。

●歳入内訳

区 分	予 算 額	構 成 比	対前年度比
自 主 財 源	3, 1 0 0, 1 6 1千円	3 8. 6 %	2. 1 %減
依 存 財 源	4, 9 2 9, 8 3 9千円	6 1. 4 %	1 4. 8 %減

●歳出内訳

区 分	予 算 額	構 成 比	対前年度比
投 資 的 経 費	5 4 8, 7 3 7千円	6. 8 %	6 1. 8 %減
消 費 的 経 費	5, 1 7 9, 9 7 3千円	6 4. 5 %	0. 5 %減
その他の経費	2, 3 0 1, 2 9 0千円	2 8. 7 %	0. 4 %減

歳入の構造の自主財源において、前年度は新型コロナウイルス感染症の影響により個人町民税や法人町民税などの町税が減額する見込みとしたが、令和4年度は、国の経済対策やワクチン接種の促進により、税収が回復していくことを見込み増額としたものの、依然として財源不足は解消せず、財政調整基金からの繰入金など、3,100,161千円（対前年度比66,850千円減、2.1%減）を計上した。依存財源について、県支出金は、農村地域防災減災事業費や県単農業農村整備事業費など、増額したが、国庫支出金は、屋内水泳場整備事業の完了により減額となった。普通交付税においては、交付税の算定基礎となる国勢調査人口の減少や、基準財政収入額である町税収入の増加に伴い減額とした。町債については、町道改良舗装事業などに充当することとし、将来の財政負担に支障がないように過疎対策事業債などの有利な起債を活用する。また、財源補てんに充当する臨時財政対策債については、国の令和4年度概算要求を踏まえて、200,000千円を計上した。この結果、依存財源は、4,929,839千円（対前年度比853,150千円減、14.8%減）となった。

歳出については、町民ニーズを検証し、安心・安全な生活基盤を構築するため、費用対効果の観点から、各事務事業の見直しを行い、創意工夫と柔軟な発想を持って、予算を編成したところである。屋内水泳場整備事業の完了により、対前年度比920,000千円減、10.3%減の予算となるが、「第2次那珂川町総合振興計画後期基本計画」に基づき「那珂川町人口ビジョン」及び、「第2期那珂川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた地方創生に向けた取り組みなどに重点を置き予算措置した。